

## 令和4年度 第2回通常総会 議事録

1. 日 時 令和4年11月29日(火) 13時00分～16時30分
2. 場 所 WEB・対面方式 ホスト：アルカディア市ヶ谷
3. 会員総数 115名
4. 出席会員 出席者 81名(会場出席 26名 WEB出席 55名)  
出席者委任 23名 議長委任 11名
5. 出席した理事 会 長 井上 圭三(議長兼議事録作成者)  
副 会 長 楠 文代 中村 明弘  
常務理事 田中 芳夫 越前 宏俊  
浜岡 純治 加留部 善晴  
理 事 杉林 堅次 亀井 美和子  
元木 和幸 奥 直人  
引田 弘道 神野 透人  
中村 恵 北川 裕之
6. 出席した監事 富田 基郎 市川 厚
7. 出席した参与 乾 賢一 本間 浩

### 8. 議事の経過の要領及びその結果

定款の規定により井上会長が議長に就任し、本日の出席会員が81名にて定款に定める定足数を満たしており、本総会が有効に成立していることが宣言された。

また、議事録署名人として出席理事から田中常務理事、北川理事を指名し、事務報告の後、議案の審議に入った。

#### (1) 前回議事録の確認について

前回議事録(令和4年度第1回通常総会：令和4年6月7日開催)について、これを全会一致で承認した。

#### (2) 会長指名理事及び理事の補充人事について

##### ① 会長指名理事について

井上会長から、「資料4」に基づき会長指名理事の提案があり、協議の結果、これを全会一致で承認した。

帝京大学 薬学部長 奥 直人

##### ② 理事の補充人事について

井上会長から、令和4年9月30日付で辞任した岩城正宏理事(近畿大学薬学部長)の後任について、令和4年度理事選挙の結果に基づき「資料4」

のとおり後任理事の提案があり、協議の結果、これを全会一致で承認した。  
武庫川女子大学 薬学部長 篠塚和正

(3) 各種専門委員会委員の補充について

井上会長から、「資料5」に基づき各種専門委員会委員について、新たに委員を追加した委員会もあることから、改めて「各種専門委員会委員 名簿一覧」として提出した旨説明があり、これを承認した。

(4) 令和5年度事業計画（案）について

小池事務局長から、「資料6」令和5年度事業計画書（案）に基づき説明があり、協議の結果、これを全会一致で承認した。

(5) 令和5年度収支予算（案）について

小池事務局長から、「資料7」令和5年度収支予算書（案）に基づき説明があり、協議の結果、これを全会一致で承認した。

(6) 令和4年度教育賞受賞について

井上会長（教育賞受賞者選考委員会委員長）から、「資料8」に基づき、本年度候補者5名（特定の事業に功績のあった者として、協会の各種委員会委員長からの推薦、内1名は大学からも推薦）について、略歴、功績等の説明があった。

次いで、11月8日（火）に開催された「教育賞受賞者選考委員会及び第80回理事会」において推薦があった5名について協議が行われ、広く薬学教育の発展に寄与するとともに、薬学教育に関する普及・啓発活動等に顕著な業績が見られることから、教育賞受賞候補者としてふさわしいとして、5名全員を決定した旨報告があり、本総会においてもこれを了承した。

（「実務実習検討委員会」の推薦）

名 徳 倫 明（大阪大谷大学薬学部 教授）

（「第三者評価検討委員会」の推薦）

杉 原 多公通（新潟薬科大学薬学部 教授・副学長）

（「共用試験検討委員会」の推薦）

野 田 幸 裕（名城大学薬学部 教授）

（「共用試験検討委員会」並びに近畿大学の推薦）

松 野 純 男（近畿大学薬学部 教授）

（「情報科学技術検討委員会」の推薦）

木 下 淳（兵庫医科大学薬学部 准教授）

#### (7) 学生入学定員の遵守について

井上会長から、これまで入学定員の遵守については、入学定員超過の問題を契機に「資料 9」のとおり、毎年度、「申し合わせ」として、協会全体で共有・認識を図ってきたが、昨今の薬学部を取り巻く環境の厳しさ、とりわけ少子化等による学生確保が深刻な問題となっていること、また、先般、文部科学省から、「6 年制薬学部の新増設の抑制方針」が打ち出されたこと等に鑑み、来年度から本申し合わせを廃止することとして提案があり、これを承認した。

なお、本協会として「申し合わせ」は廃止するが、各大学においては、引き続き入学定員の取扱いについて留意するよう発言があった。

#### (8) 広報誌「6 年制薬学ガイド 2024」の刊行について

井上会長（広報誌編集委員会委員長）から「資料 10」に基づき、今回刊行する「6 年制薬学ガイド 2024」の編集内容について、6 年制薬学教育のこれからを語る座談会（本編集委員及び高校 2 年生による座談会）、コロナ禍における薬剤師の役割として、重症化リスクのある患者の療養生活をサポートする薬剤師と医師へのインタビュー、大学の学びでは、次期薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂を反映した内容を織り込み、また、卒業後の進路では、6 年制薬学部を卒業した者を中心に上げること等の説明があった。

なお、本ガイドの発行時期については、現在検討中の「薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）」の改訂スケジュールとの関係から、来年 5 月頃を予定しているとの報告があった。

#### (9) 令和 5 年度主要会議の開催予定について

井上会長から、「資料 11」に基づき令和 5 年度会議開催予定について報告があった。

#### (10) 薬学教育協議会について

本間参与（薬学教育協議会代表理事）から、「資料 12」に基づき、日本私立薬科大学協会に対し、薬学教育協議会が作成する「2023（令和 5）年度薬学実務実習広報用ポスター」の後援名義の申請があり、これを承認した。

また、「第 45 回病院・薬局実務実習中央調整機構委員会（10 月 7 日開催）」について、第 I、II 期実務実習報告の中で、特にハラスメントについて及び就職活動の前倒しに伴う実習期間中のインターンシップへの参加を理由とした実習の欠席が散見されることが問題となっており、意見交換を行った等の報告があった。

なお、令和 4 年度から、日本薬剤師研修センターより移管された認定実務

実習指導薬剤師認定業務について、11月4日時点における申請・審査の状況報告があった。

#### (11) 薬学共用試験について

奥理事（薬学共用試験センター副理事長）から、「資料13」に基づき以下について報告があった。

##### ① 2022年度薬学共用試験課題数の見直しについて

2022年度課題数は「5領域6課題」で実施予定であったが、COVID-19の感染急拡大に伴い、課題数を見直し「5領域から異なる領域の3課題」に変更した。

##### ② 2022年度薬学共用試験 CBT 体験受験結果について

##### ③ 新型コロナウイルス感染症に伴う「特別試験」の実施について

昨年度に引き続き「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に罹患あるいは濃厚接触者と認定されたこと等により、本試験あるいは追・再試験を受験できなくなった学生を対象」に特別試験を実施する。また、COVID-19疑いのために受験できなかった学生も対象とするが、インフルエンザ等其他の感染症、病気、怪我等の理由は対象としない。

- ・特別試験の実施及びその対象者の最終判断は大学が行うこととする。
- ・試験期間は、2023年3月13日（月）～3月26日（日）

##### ④ 2023年度薬学共用試験実施予定案について

#### (12) 薬学教育第三者評価について

白幡薬学教育評価機構総務担当理事から、「資料14」に基づき薬学教育評価機構が主催する「6年制薬学教育の内部質保証に関するシンポジウム」（令和4年12月14日（水）：オンライン開催）について報告があった。

#### (13) 国公立大学薬学部長（科長・学長）会議について

井上会長から、「資料15」に基づき国公立大学薬学部長（科長・学長）会議が、10月21日付で日本製薬団体連合会会長宛に要望した「薬学生の就職・採用活動に関するお願い」の概要及びこれに関連し、協会として対応を協議することとし、検討の場とし「実務実習検討委員会」の下で行うことになった経緯等について説明があった。

次いで、中村副会長（実務実習検討委員会委員長）から、本委員会の検討結果について以下の報告があった。

- ・実務実習の期間中に、インターンシップを理由に欠席している学生が見られる等、実務実習の実施に大きな影響が出ている。また、学生にとっては、インターンシップが優先され、卒業研究への欠席が見られる等の問題がある。
- ・「薬学生の就職・採用活動に関するお願い」（要望書）の扱いは、国公立

- 大学共通の問題として、足並みを揃えた対応が必要である。
- ・要望先として、日本製薬団体連合会に加え、日本薬剤師会、日本病院薬剤師会、日本チェーンドラッグストア協会、日本保険薬局協会を対象に加えたかどうか。
- 以上の報告を踏まえ、協会としても国公私立大学共通の課題と認識し、今後の取り扱いについては、全国薬科大学長・薬学部長会議に検討を依頼することとした。

#### (14) 日本薬学会の報告について

中村副会長(日本薬学会薬学教育委員会委員長)から、「資料 16」に基づき「学位(博士)取得者のキャリアデザインに関するワークショップ」概要(11月13日開催)及び日本薬学会薬学教育委員会の令和5年度事業計画として、①「大学院進学促進事業」の企画・開催、②「大学での教育研究活動をサポートするFD」の企画・開催等について報告があった。

#### (15) その他

##### 1) 薬学系人材養成の在り方に関する検討会について

井上会長から、「資料 17」に基づき以下について報告があった。

##### ① 第3回検討会(令和4年8月16日開催)

「6年制課程における薬学部教育の質保証に関するとりまとめ」が検討され、了承された。

##### ② 第4回検討会(令和4年11月25日開催)

薬学教育モデル・コア・カリキュラム(令和4年度改訂版)が了承され、今後、パブリックコメント実施の手続きを進めることとなった。

##### 2) 第7回「日本薬学教育学会大会」の報告について

田辺北里大学薬学部長から、「資料 18」に基づき令和4年8月20日(土)、21日(日)の両日、北里大学薬学部においてWEB開催された「第7回日本薬学教育学会大会(テーマ:薬学人のアイデンティティを探る～自己実現を志向する薬学教育～)」について、大会概要、参加者数等の報告があった。

##### 3) 第8回「日本薬学教育学会大会」の後援名義申請について

中村副会長(同学会副理事長)から、「資料 19」に基づき令和5年8月19日(土)、20日(日)の両日、熊本市内で開催される「第8回日本薬学教育学会大会(テーマ:薬学教育、次のフェーズへ～グローバルコラボレーションへの進展～)(大会長:森岡弘志熊本大学薬学部長)」について、本

協会に対し後援名義の申請があり、これを承認した。

#### 9. 令和4年度教育賞授与式について

井上会長から、令和4年度教育賞受賞者として、名徳倫明氏（大阪大谷大学教授）、杉原多公通氏（新潟薬科大学教授・副学長）、野田幸裕氏（名城大学教授）、松野純男氏（近畿大学教授）、木下 淳氏（兵庫医科大学准教授）の5名に対し、表彰状及び教育賞盾等の授与が行われた。

#### 10. 講演について

帝京大学大学院公衆衛生学研究科 今井博久教授から、「新しい時代の薬剤師の機能と薬学部の教育—リフィルとフォーミュラリを題材に一」と題し、リフィル処方箋の導入、フォーミュラリの実施等薬剤師を取り巻く医療環境が大きく変化する中で、大学の薬剤師教育はどうあるべきか等について講演が行われた。

#### 11. 薬学教育の諸課題について

(1) 文部科学省高等教育局医学教育課 大久保薬学教育専門官から「資料20」に基づき、以下について説明があった。

- 薬学系人材養成の在り方に関する検討会について
- 6年制課程における薬学部教育の質保証について
- 薬学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂について
- 令和4年度薬学教育指導者のためワークショップについて（報告）  
テーマ：「薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）」  
に基づくカリキュラム実施に向けて
- 令和5年度概算要求について

(2) 厚生労働省医薬・生活衛生局 磯崎国際医薬審査情報分析官から「資料21」に基づき、以下について説明があった。

- 第108回薬剤師国家試験の施行について
- 令和3年度医薬品販売制度実態把握調査について
- 薬局薬剤師の業務及び薬局の機能に関するワーキンググループ  
とりまとめについて
- 薬剤師の偏在と確保対策について
- デジタル化・ICT化の動きについて
- 医療従事者届出のオンライン化について
- 令和5年度概算要求について

議長は、以上をもって議案の全部の審議を終了した旨を述べ、16時30分閉会を宣言した。

以上の議決を明確にするため、本議事録を作成し、議長及び出席理事（指名された議事録署名人）がこれに署名捺印する。

令和 4 年 12 月 20 日

一般社団法人 日本私立薬科大学協会

議長兼議事録作成者 井 上 圭 三  
(押印済)

出席理事（議事録署名人） 田 中 芳 夫  
(押印済)

出席理事（議事録署名人） 北 川 裕 之  
(押印済)